

業]、「寺山公園整備事業」について、現地で説明を受けました。

また、1日目の講習終了後、「参加者同士の交流会・講師との意見交換」を48名の参加をいただいて開催しました。地元新潟県の地酒と古町芸妓によるおもてなしなどもあり、盛況のうちに終了となりました。

**「令和2年 2020全建手帳」
掲載内容を充実し、販売中！**

「令和2年 2020全建手帳」を発行しました。やわらかな作りで手に馴染みやすく、使い易いと好評をいただいています。令和2年版は、建設技術者にとって必要な「インフラ情報を満載！」建設技術関係の月間や記念日、高速道路等の開通日、大きな災害の発生日、イベント予定日などの掲載をさらに充実させました。

主な特徴は、次のようなものです。

- ・A6版サイズで、記入スペースが広く使いやすい大きさです。
- ・便利なペン差し付き大型ポケットを備えています。
- ・資料編には、近代日本の主な災害、災害用伝言ダイヤル、都道府県データ、関係機関の電話番号、年齢早見表など、多くの資料が掲載されています。
- ・カレンダーの収録期間が2019年11月1日から2021年3月31日までと長く、新しい手帳の移行に便利です。
- ・定価 713円（税込）

【問い合わせ先】

企画課 露木 竹村
TEL：03-3585-4546 FAX：03-3586-6640
E-mail：kikaku@zenken.com

Dr.クマの“健康のヒント”

感染症のグローバル化



今年インフルエンザの流行開始が早かった。9月には九州の一部や沖縄で流行がみられ、その他の地方でも早い時期からの流行開始が心配されている。そもそもインフルエンザは冬に流行するはずなのに、なぜ夏に流行が始まったのか。ここでよく考えてみよう、我々が住む北半球が夏の時、南半球は冬ののだ。しかも、暑い熱帯地方でもインフルエンザは流行する病気だ。興味深いことに赤道に近いシンガポールではインフルエンザの流行は年に2回ピークがあるという。流行は北と南を往復していると考えるとわかりやすい。今年には特にラグビーW杯が日本で開催され、南半球からの旅行者が多いことからインフルエンザウィルスの持ち込みがあったのでは、

という意見もある。W杯がなくとも、現代では多くの旅行者が世界中を飛行機で移動している。適切な対処をしなければ、病原体はあっという間に世界に広まる。数ヶ月で中国から29ヶ国に広がったSARSがよい例だ。日本の夏にインフルエンザウイルスが入ってきた場合、予防接種の効果が薄れた時期にあたることや、冷房による空気の乾燥などが、流行につながっていくものと考えられる。医療関係者の間では、インフルエンザのみでなく、色々な感染症が海外から持ち込まれることを予測して対応策も練っているが、予防の基本はまめな手洗いとワクチン接種である。自分と家族は自分で守ることが重要だ。 (北里大学医学部 教授 熊谷 雄治)